

『エイズを知るためのワークショップ』報告書

日時：2007年12月18日（火）19：00～20：30

場所：（財）自治体国際化協会 市民国際プラザ

講師：李祥任氏（（特活）シェア＝国際保健協力市民の会 国内保健事業担当）

講演会（ワークショップ）の目的：

実際にプロジェクトに関わった（特活）シェア＝国際保健協力市民の会（以下、シェア）のスタッフから、タイでの HIV/AIDS に対する取り組みを聞き、プロジェクトの中で取り入れられているワークショップを体験することで、HIV/AIDS についての理解を深め、身近なこととして考えてもらい、次なる行動につなげてもらう。

講演会（ワークショップ）の内容：

- ・シェアのタイでの取り組みや今までの歴史をパワーポイントで紹介する。
→HIV/AIDS についての基礎知識を確認した後、シェアタイがなぜ、どのようにプロジェクトをはじめたのか、タイにおける HIV/AIDS への取り組みを紹介していただいた。
- ・「水の交換」のワークショップ
→透明なコップに入った水を、参加者同士があいさつや自己紹介をしながらストローで交換するというシンプルなもの。最後に「検査しましょう」と、ある薬品を入れると、半数のコップの水が赤く染まる。「HIV ウィルスは人を選ばない。誰でも感染する可能性がある」ということを知るためのワークである。
- ・「HIV 感染の危険度分類」のワークショップ
→「オーラルセックスをする」「コンドームを使わない肛門性交をする」「HIV に感染した母親から生まれる」「HIV 感染者を自宅で介護する」などと書かれたカードを、「HIV への感染率」が高いもの、中くらいのもの、低いもの、全くないものに分類し、その理由を参加者が発表する。
- ・質疑応答

参加者数：15名

参加者が参考にした情報媒体：

その他ウェブサイト5名（NGO ネットワーク、国際協力マガジン、東京ボランティア市民活動センター、シェア2）／市民国際プラザウェブサイト4名／友人・知人からの紹介3名／メーリングリスト（シェア）／その他2名（学校で）

参加者の所属内訳：

NGO7名（日本チェルノブイリ連帯基金、日本イラク医療支援ネットワーク、ふれいす東京、ACCESS21、日本国際飢餓対策機構）／教育関係者3名（埼玉県入間市立向原中学校）／学生2名（上智短大）／自治体1名（CLAIR）／会社員1名／その他1名

来訪者のアンケートより

○今日分かったこと

- ・シェアの方々が地道な活動ながら、熱心に長くとりくむことで、大きな流れを作っていることはすばらしいと思いました。
- ・タイにおけるシェアのエイズに関する活動
- ・アイスブレイキング（とてもおもしろかったです）

- ・この場所！←こんなに情報満載の場所があるなんて知りませんでした！
- ・楽しみながらワークショップをやる方法
- ・共に生きていく為に、HIV/AIDS に関しての正しい知識を持つこと、またその通りに実践することの大切さを学びました。ワークショップではいかに身近に感じてもらえるかが大切だと（水の交換で）わかりました。
- ・タイでのエイズ予防の取り組み。エイズをより身近に感じる事ができた。
- ・HIV はアバウトにししか理解していなかったのですが、今回ワークショップやお話を伺って少し HIV についてとらえ方が変わったように思います。HIV 感染者に対して非難をするのではなく今では薬も普及しているので治療が進んでいる。だから多くの人々に分かってもらいたいと思いました。
- ・タイ国内にての HIV/エイズ教育の事例
- ・エイズ感染について参加者に興味を持ってもらうためのワークショップの手法がとても良かったです。（あまり時間を要さずシンプルであって、かつ考えさせるワークショップだと思います。）
- ・エイズがどのように感染するかは知っていたのですが、実際に学校で学んだ時は、ストレートな言葉で表現されていなかったのので、例をあげて今日考えさせられて、本当はそんなにおそろしい病気ではないと感じました！！（今日では、薬などもあるので…差別とかするほどのことではない！！）
- ・タイにおけるエイズに対する取り組む姿勢がわかり、日本においても参考にしなければならないことがいくつかあった。
- ・PLWHA（People Living With HIV/AIDS）主体の活動の実際
- ・タイにおいて HIV の感染者の増加が東南アジアで一番多いこと
- ・タイにおいてのシェアの活動
- ・シェアがタイで、住民とともにエイズ問題に取り組むようになるまでの土台作り。「陽性者グループのリーダー」というのが、そもそも日本にはいないような気がする。
- ・コップの実験を通して、本当に目に見えないし、誰にでもうつる可能性があるのが、病気なんだと感じました。AIDS に関して、日本でもこのように活動されている方々がいらっしゃることを知りました。今まで私は AIDS を含めて、性教育を誰かにやってもらいたいと思って探していましたが、自分でも勉強して、活動することで自分も子どもたちに教える、伝えることができるんだな…と、目からウロコでした。今後はその視点で活動していきたいと思いました。

○分からなかったこと、もっと知りたいこと

- ・今回とりあげられた国（タイ）以外の地域の現状、エイズに対する取り組み
- ・日々勉強なので、今日も李さんの発表内容はもちろんですが、発表の仕方やアイスブレイキングのとり方、参加者をひきつける講演方法なども知ることができました。
- ・HIV に感染した人の予防
- ・どうしても避けられない性について、日本でもやりやすく（小さい子達にも）できる為の idea をもっと勉強したいです。（木島知草さんという方の活動はすごいと思うのですが）
- ・今日の本題ではなかったが、やはり日本での HIV/AIDS 感染の現状が気になります。
- ・基礎的なこと予防策は理解できました。これからもっとアンテナをはって敏感になって行こうと思います。
- ・エイズ検査はどういうものか。エイズは発症するとどうなるか。ワクチンの効果や、副作用はどういうものか→まだ知識が足りないので今後の課題として勉強します。
- ・エイズについてまだまだ知らないことがあった。実際に感染者の方々に話を聞いたら、もっと違う考え方も見えてくるのかな…と思いました。

- ・ワークショップ（分類）で、各項目がどのくらい危険なのか、逆にそれほど気にしなくてよいことなのか詳しく知りたい。
- ・project 進める中で起こった問題（裏話）がきけると更に参考になってうれしいです。
- ・当事者（HIV ウィルス感染者）が日本のシェアで活動していますか？
- ・分からなかったこと、というか、日本の中にエイズ教育・性教育をポジティブに普及させていくため、一体何からはじめればいいのか、自分に何ができるのか…。
- ・タイや日本の子どもたちに、性教育と life skill を教えているとおっしゃっていましたが、具体的なプログラム内容を知りたいな…と思います。

今後やって欲しい企画展のテーマ：

子供たちの識字／飢餓について／市民国際プラザで以前開催されていた水のはなしの続編（例えばコーヒーやチョコレートから南北問題を考えるワークショップ）／日本におけるエイズの取り組み／楽しくて刺激的な企画展

その他、ご自由に：

- ・長い取組みの中で大変なご苦勞も多いと思いますが、出されている大きな成果に感銘をうけました。
- ・とても楽しくわかりやすいワークショップでした。勉強になりました。がんばろうと思います。
- ・短い時間だったが非常に分かりやすいお話と考えさせられるアクティビティの組み合わせがよかったです。
- ・今日はありがとうございました。もっともっと HIV 感染者が生きて生きやすい社会ができたらと思います。自分達の考えや、意見がもっと発信していけるような♡
- ・地域コミュニティの大切さがわかりました。
- ・次の企画展も期待しています！
- ・感染者も、障がい者も、子どもも、弱い立場の人は意見をもたないかわいそうな人と思われがち。でも彼ら当事者にこそ世の中を変える力がある。当事者の声はとてりリアルだから。彼らを力づけていく、そんな活動を今後もしていきたい。
- ・ありがとうございました。（多数）

<ワークショップの評価・今後について>

ワークショップの目的として、HIV/AIDS について「理解する・考える・行動する」というテーマをあげていた。来訪者のアンケートを見ると、「よく分かった」、「がんばろうと思う」、「自分に何が出来るのか」、「知りたい・勉強したい」という感想が多く見られ、この目的は大きく達成されたように思う。今後も、企画展においては、こういった来訪者の次なる行動につながるような特別企画を開催していきたい。